

○各大学における特色ある取組、公立化時の目標達成状況

教育の質の向上及び地域貢献のための取組状況

地域協創センターの設置

長岡造形大学は、平成6年に公設民営方式により設立した経緯から、教育研究における地域との結びつきを重視するとともに生涯学習・イベントなど市民が大学に能動的に足を運ぶ機会をつくってきた。

平成26年4月の公立大学法人化に伴い、大学改革として「経営力の強化」「教育研究力の強化」「地域貢献力の強化」を掲げ、将来にわたり地域社会に貢献できる大学への新たな一歩を踏み出した。特にこれらの3要素を有機的につなげ、より一層地域との連携を深めるために、地域協創活動の専門機関である「地域協創センター」を開設した。地域協創センターは本学の教育研究活動と地域貢献との結びつきを最適化するプラットフォームとなり、地域のあらゆるデザインニーズを一元的に受け止め、デザインの活用を更に広めていくことが可能となっている。コーディネーター役として本学専任教員である地域協創センター長と事務局を配置し、事業・活動等の実施にあたっては本学全体をあげて取り組んでいる。

地域・社会連携系科目の推進

科学技術の進歩や社会のニーズへの変化への対応と学生の自主的、自律的な学修、研究、制作活動の活性化を図るため、これまでの教育研究組織、カリキュラムポリシー及びカリキュラムを検証・見直しを行い、令和5年度4月に新たな学科体制とカリキュラムをスタートさせた。地域・社会や企業と連携自他実践的なデザインプロジェクトにより、社会人基礎力を養成する「地域・社会連携系」科目を拡充し、構想力を重視したデザインプロセスを総合的に学ぶ演習・実習科目を強化した。

地域貢献に関する目標の達成状況

公立大学法人長岡造形大学中期目標（令和2年度～令和7年度）で以下のとおり、目標を設定している。

●地域社会との連携

地域社会と協働し、デザインを通じた地域課題の解決や新たな地域価値の創造を目指す。また、子どもから大人まで生涯にわたる学習機会を提供し、文化活動の振興に貢献する。

公立大学法人化前より地域・企業からの受託研究の取り組み、官学が連携したイベントの実施、敷居は低く開かれた大学として、大学施設を広く市民に開放するなど継続的に取り組んできた。

公立大学法人化に合わせて設置した地域協創センターはワンストップ窓口の機能を有し、当該センターを介して市民、産業界、高等教育機関、行政機関、金融機関等と連携した様々な取り組みが生まれている。その中でも、学部の授業科目「地域協創演習」、大学院の授業科目「地域特別プロジェクト演習」は、コミュニティデザインやサービスデザイン等の実プロジェクトに学生が実践的に取り組み、新たな価値創造への挑戦を通して地域の活性化に資する授業となっている。令和4年度は地域貢献に関するプロジェクトを43件実施し、令和5年度は米百俵プレイス ミライエ長岡を活用した効果的で魅力のあるプログラムの開発にも取り組んでいる。

さらに、地域住民その他の学生以外の者に対するデザイン等に関する学習の機会を提供し、地域における生涯学習の支援及び文化振興に資することを目的として文化振興センターを設置し、次の活動を行っている。

- ・社会人を対象としたデザイン講座、デザイン思考講座等の実施
- ・一般市民に向けたレベルの高い工芸分野の実技講座である市民工房、小学生に向けたデザイン・美術講座であるこどもものづくり大学校の運営
- ・小中学生を対象としたデザイン思考等の講座実施

- ・長岡駅前の学びと交流の拠点であるまちなかキャンパス、ミライエ長岡子どもラボ、熱中！感動！夢づくり教育事業への参画

●産業振興との連携

企業、自治体、教育機関、金融機関等と連携し、研究成果や人的資源を生かして事業支援を行うことで、地域の産業振興に貢献する。

NaDeC 構想(※)による連携で、令和 4 年度に産学官金マッチングイベント「Matching HUB nagaoka」を実行委員会メンバーとして初めて長岡市で開催し、大学シーズの紹介や企業のニーズの把握及びマッチングを行うことで地域課題の解決に取り組んだ。令和 5 年度も引き続き本学教員のシーズをアピールし、産学マッチングを促進している。また、M-BIP Nagaoka（学生によるビジネスアイデア発表会）、長岡未来デザインコンテスト、リーンローンチパッドプログラム(起業家育成プログラム)に本学学生が積極的に参加しており、令和 5 年 8 月に開催されたリーンローンチパッドプログラム DEMO DAY（ビジネスプラン発表会）では最優秀賞、KDDI 賞、NTT 東日本賞に本学学生が参加するグループが選ばれている。

さらに、長岡工業高等専門学校の「アントレプレナーシップ演習」と本学「地域協創演習」の合同授業を NaDeC BASE で実施し、異なる分野の学生がデザイン思考をもとに混成チームでプロジェクトに取り組んだ。

デザイン思考に関する研修を、長岡市職員を対象に 16 回、一般の方を対象に 4 回（オンライン）、企業等を対象に 5 回実施した。一般対象のオンライン講座をきっかけに大手企業の社員向け講座を依頼されるなど、デザイン思考に関する講座の実施も増えている。（令和 4 年度）

※NaDeC（ナデック）構想

人材育成や産業振興を産学官金で支援するため、市内 4 大学 1 高専（長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡崇徳大学、長岡工業高等専門学校）が連携し産学協創や学生起業家の輩出等を進めている。

●若者の長岡への定着

市内在住の高校生及び市内高校出身者の積極的な受入れを図る。また、卒業後における長岡への定着促進にも資するよう、市内企業及び自治体と連携した学生及び卒業生に対するキャリア形成支援に取り組む。

・地元高校生の高等教育機関への進学機会を確保することを目的とし、長岡市内の在住者は入学料の半額 141,000 円を免除している。また、学部入学定員 230 人のうち長岡地域定住自立圏（長岡市、小千谷市、見附市、出雲崎町）の優先枠 20 人を設定し、生まれ育ったまちの大学で知識や技術を身に付け地元就職する、それら人材が新たな地域価値等の創出に貢献するよう入試制度の面でも取り組んでいる。

・公立大学法人化後に入学者の県内外比率が逆転し、多くの県外出身者を受け入れており、現在県外出身者は約 8 割である。学生の多様な地域性から様々なアイデアが生まれ、先記の「地域協創演習」では実プロジェクトに取り組む地元企業や行政などに対して幅広いアプローチができ、新たな価値の創造につながる動きとなりつつある。県外出身者が本学で地域をフィールドに学ぶことで県内及び長岡での就職等を進路として選択するとともに、県外に出ていく学生においても本学で修得した能力を発揮し、それぞれが関わる地域や社会の発展に貢献することを期待している。さらにそれが新しい時代の社会を担う多様な入学者の受入れにつながるものと考えている。